

美麻の歴史

■ なぜ美麻という地名がついたのか？

明治期の町村制が実施されたとき、「美麻」が村名として命名されました。その由来の確かなことは不明ですが「美しい麻が素直に育つ村」として、遠い昔から麻づくりに励んできた村里のイメージが豊かに響いています。明治40年(1907)ごろ、「信濃の国」を作詞した浅井湧は、旧青具小学校校歌を作詞し、一番の冒頭に「蓬も麻にまじわれれば自ずと直くなるぞかし」と語りだしています。麻栽培に勤しむ人々に心を寄せて、その大地に育つ子らへの思いを表現したのでしょう。それだけ「麻」栽培への執着や、こだわりも強かったのです。

■ 麻の歴史

制麻「麻 麻布」は古くから、租税として収納されました。麻は美麻の全体的な加工産業として昭和10年代まで継続されました。最上級品は織物、畳糸用に、中級品はロープ、麻袋につかわれました。日清・日露戦争期は穂魚用網などにも使われました。麻の栽培は麻薬の原料となる「マリファナ」が取れるので、戦後許可制になりました。その上昭和30年代に化学繊維が開発され、安く手に入るので、麻繊維の需要がなくなりました。こうして、麻の栽培は終わったのです。

■ 長野県内で最古の民家 中村家

住宅の旧所有者・中村家は、江戸時代初め・慶長19年(1614)に上方からこの地に移り住んだといわれ、江戸時代に青具村の組頭・庄屋など村役人を勤めました。現在の主屋は、元禄11年(1698)3月、2代目庄右衛門とその子佐五右衛門の代に、隣村千見村真面の大工九平によって建立されたことが、中村家の「年代記」により明らかで、県内の現存で建立年代が明確な民家としては最古になっています

■ 超簡単な美麻の歴史年表

明治8年	美麻村誕生
明治39年	県下優秀村の表彰を受ける
昭和26年	大麻品評で農林大臣賞受賞
昭和55年	米国カリフォルニア州メンドシーノ村と姉妹村提携調印
平成元年	村制百周年
平成17年	大町市と合併
平成23年	美麻市が始まる。

その他 美麻の歴史的なもの

静の桜 友好記念碑

静御前の伝説が残っている



大町市立 美麻小中学校
〒399-9101 長野県大町市美麻27503
TEL 0261-29-2004・29-2231, FAX 0261-29-2667
Eメール mlasaej@mlasa.city-omachi.ed.jp